

## ティーチング・ステートメント

所属 経営情報学科

名前 浮田善文

作成日 2020年3月31日

### 【責任】

経営情報学科に所属し、統計的な情報処理を中心とした教育・研究活動を行っている。主たる教育活動は、情報技術や AI を中心とした情報処理関連科目の担当、ゼミ生の研究・就職支援、ゴルフ部の顧問である。

### 【理念】

近年の情報技術の発展や AI の利用が進むにつれ、これまでのルーチンワークや与えられた仕事のみをこなしているだけでは働く場がますます少なくなると思われる。このため、学生には、自分で考え、自分で新たな仕事やビジネスを見つけることができる人材になってほしいと考えている。そのために、大学では「自分で問題を発見する力」と「新たな問題を解決する力」を身につけて欲しいと思っている。

「自分で問題を発見する力（問題発見能力）」は、現状に対し自分の視点で問題点を見つける能力であるが、このためには、対象とする問題を深く理解し多角的にとらえる力が必要である。また、「新たな問題を解決する力（問題解決能力）」は、既に解き方が知られている代表的な問題を解く力だけでは不十分で、これまでまだ扱われていない問題に対し、その問題の本質をとらえることで問題に適した解決方法を見つける力である。これらを鍛えるために授業での演習、ゼミナール・卒業研究等の教育があると考えている。

### 【方針・方法】

上記の理念を実現するために大学の授業やゼミナールでは、学生が「実践から学ぶ」、

「成功体験を積み重ねることを重視し、「できる」を増やす」という二つの方針で教育を行っている。この理由は、学ぶことの楽しさ（学生が興味を持つ実践からの学びの楽しさ、成功体験により得られる学習の楽しさ）を知ることが、学生の成長に一番重要と考えているためである。

「実践から学ぶ」

- 授業の実習やゼミナールでは、「まずやってみる」を重視し、実際に PC などを動かすことで「何ができるか」「なぜこのような結果が得られるのか」等を自分自身で考えてもらうことを大切にしている。これにより、問題発見能力を養うための主体的な学びを行い、問題解決能力に必要な対象の深い理解が得られるようにしている。また、学生自身が将来、実問題の本質的な解明を行う際に情報をどのように活用したらよいか、またそのために必要な実践力とは何かについて、常に意識してもらいながら実施できる課題を多く提供している。

- ゼミ生の研究支援では、研究テーマは指定せず、ゼミ生自身が研究対象やテーマを選ぶ過程を重視し、そのための時間を多く与えることで問題発見能力を養っている。また、AI やプログラミングに関する実習を多く取り入れることで論理的な思考力を身につけ、問題解決能力を養っている。さらにゼミでの発表を通じて、様々な見方や捉え方を養う機会を提供している。

「成功体験を積み重ねることを重視し、「できる」を増やす」

- 授業では、本質的で平易な課題を多く取り入れ、徐々に課題のレベルを上げることで、基盤となる問題解決力を身につけながら、高度な実問題の解決までできる力を養ってもらいたいと考えている。またこの過程で、学生には自分自身で考える時間を多く与えることで、問題発見・解決につながる論理的な思考力を身につける機会を提供している。
- ゼミナールでは、身近な問題で AI がどのように使われるかを考え、実際に PC を使った実習を多く行っている。例えば、AI プログラミングであれば、一つ一つの分量は極力短くし、内容の理解がしやすいものを提供している。また徐々にレベルを上げることで、「自分でできた」という成功体験を積み重ね、自信と成長の楽しさを感じられる進め方を行っている。

#### 【評価・成果】

- ・ゼミ生は全員、自分で研究テーマを選び、卒業論文作成の過程で「問題発見・解決能力」を身につけている。
- ・今年度のゼミ卒業生は全員、希望業種での内定をもらうことができた。
- ・ゴルフ部では、団体戦に取り組むことで、部員間のコミュニケーション能力を養うことができた。また、退部者は1名に抑えることができた。

#### 【目標】

- ・すべての授業およびゼミナールで AI を取り入れることにより、AI 活用時代における「問題発見・解決能力」を養う。
- ・ゼミ生の就職支援のための時間を十分にとることで、ゼミ卒業生全員の早期の内定獲得を目指す。
- ・ゴルフ部の顧問では、退部者をゼロにすることを目標とする。